

弊社鉄道線における関係自治体との協議状況等について(ご報告)

日頃より県民の皆様方には、弊社鉄道線をご利用賜り厚く御礼申し上げます。

現在、鉄道線のあり方等について、富山県、沿線自治体と協議を重ねているところですが、県民、沿線住民の皆様の代表である一部議員のご発言の内容と弊社の認識に隔たりが見受けられること、また、鉄道線維持において議論されている行政の負担について、引き続きご理解を深めていただく必要があると感じております。

これらの課題について、これまでの関係自治体との協議状況並びに弊社の見解についてご報告させていただきます。

弊社の鉄道線は総延長93.2キロと地方の中小民間鉄道事業者の中では最も長いうえに、勾配のきつい山間区間も多く、運行に負担のかかる路線であります。

これまでも、人口減少、少子高齢化など利用客が減少する中、いち早くパターンダイヤ、企画乗車券、サイクルトレイン、新駅設置など利用者増に向けて取り組んでまいりました。

また、費用面においても、弊社の技術力を最大限活用して節減に取り組むとともに、労使理解のもと人件費の圧縮を中心とする合理化、効率化に努めてまいりました。

しかし、昨今の燃料・資材費等の高騰、労働力不足などの外的要因により、費用が収入を遙かに上回る状態が続き、この長い路線の維持が困難な状況となっております。

これらの理由により、令和3年7月富山県に対しこのままでは鉄道全線を維持することが困難である旨を伝え、今日に至るまで「富山県地域交通戦略会議」を始め、勉強会、検討会、分科会等、富山県及び沿線自治体との協議を重ね多くのデータや資料を提供しご理解を求めてまいりました。

一部報道では、「自治体からの支援がなければ廃線」との記事がありますが、弊社では本線において上市までの採算区間に加えて、上市以遠滑川までの不採算区間をあいの風とやま鉄道との鉄道ネットワークの維持、また立山線においても五百石までの採算区間に加えて、五百石以遠岩峠寺までの不採算区間を弊社不二越上滝線との接続を確保し、両線とも鉄道インフラとしての社会的な役割、旅客流動や利用者ニーズを踏まえた公共性の観点から、各々これまで通り弊社単独で運営したいと考えております。

なお、不二越上滝線については終点の岩峠寺までを令和8年度から「みなし上下分離」方式によって維持する方針が富山市より示されておりますが、弊社としては、その他の区間も同様に、今後、維持に向けた行政負担の方針を示していただいたとしても、それに対する県民・沿線住民の皆様の十分なご理解、コンセンサスが得られてこそ、運営の継続が可能になるものと考えております。

引き続き関係者の皆様と慎重かつ十分な協議を重ねてまいりますので、ご理解いただきたくお知らせいたします。

令和7年9月25日
富山地方鉄道株式会社